

令和5年度八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会会議録

日 時 令和6年3月3日（日） 午前10時00分から午後10時45分まで

場 所 市役所別館2階 第1・2会議室

出席委員 寒河江達雄，栗根秀光，伊藤一男，小杉直史，長谷川浩一，三橋勇（敬称略）

事務局 服部市長
増田課長，長岡主査補，駒井主事（シティプロモーション課）

会議内容 公開

傍聴人数 1名（定員5名）

<議題>

- (1) 令和5年度事業報告について
- (2) 令和6年度事業計画について
- (3) その他

令和5年度八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会会議録

<増田課長>

皆様、おはようございます本日はどうぞよろしくお願いいたします。

会議に入る前に資料の確認をさせていただきます。

資料でございますが、表紙記載の13点をつづっております。

ページ数といたしましては21ページとなっております。

落丁、ページ漏れ等ございませんでしょうか。

それでは、定刻となりましたので、会議を開会いたします。

本日はお忙しい中、八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会に御出席を頂きありがとうございます。

それでは、ただいまより令和5年度八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会を開会いたします。

本懇談会は八千代市審議会等の会議の公開に関する要領の規定により、会議は公開となっております。

本日1名の傍聴がありますので御了承をお願いいたします。

なお、本会議は会議録作成のため録音させていただきますので御了承をお願いいたします。

また、発言される際には御手元のマイクボタンを押していただきますようよろしくお願いいたします。

それでは服部市長より御挨拶を申し上げます。

<服部市長>

どうも皆さん、おはようございます。

本日は、懇談会に御出席を頂きましてありがとうございます。

皆さん御案内かと思えますけれども、この事業自体はですね、ふるさと創生1億円事業を活用した事業で、各自治体で、そのときの元手がなくなっているとかいろいろな話がある中で、うちは先人の知恵で良い事業を残してくれたなと思っております。

この八千代では、主にバンコクへ子供たちを派遣させていただいております。新型コロナウイルスの影響でしばらくお休みをしたのですが、今年度から復活をさせていただきましたし、この主題を見ると、令和6年度も、バンコクの受入れと、それからバンコクへの派遣事業を予定しているようでございます。

私どもは子供たちに、幼いうちから国際交流を肌で感じてもらって、これからの豊かな人生に生かしていただきたいという先人の思いを引き継ぐ形で行っております。

本日は、その事業を専門家の各階層の皆さんの立場から忌憚のない御意見を頂いて、より良い国際交流に資する、特に、子供たちにとってすばらしい教育関係をつくるための事業の手助けが行政としてできればこんなうれしいことはありませんので、ぜひ、皆さま方にお力添えを頂き、よろしくお願い申し上げます。

<増田課長>

ありがとうございました。

続きまして、本日初めて顔を合わせる委員さんがいらっしゃいますので、御紹介させていただきます。

田中康弘様の御後任でございます。八千代商工会議所専務理事の長谷川浩一様です。

<長谷川委員>

皆さま、おはようございます。

会議所の長谷川と申します。

今回初めてですが、よろしくお願い致します。

<増田課長>

なお、入江委員、三橋洋子委員におかれましては本日所用のため欠席との御連絡がありまし

た。

また、平山委員小川委員についてはちょっと遅れていますが、もう定刻となりましたので始めさせていただきますと思います。

ここで、市長は次の公務のため退席となりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

続きまして、事務局職員の紹介をいたします。

シティープロモーション課の長岡主査補です。

<長岡主査補>

よろしくお願いいたします。

<増田課長>

同じくシティープロモーション課の駒井でございます。駒井は、ちょっと受付にいますので、ちょっとここは不在にしております。

最後になりますけど、私シティープロモーション課長の増田でございます。よろしくお願いいたします。

以上で事務局職員の紹介を終わります。

なお、当懇談会は三橋座長が会議の議長を務めることになっておりますので、ここからは、議事の進行を三橋座長にお願いしたいと思います。

三橋委員よろしくお願いいたします。

<三橋座長>

ありがとうございました。

皆さま、おはようございます。

今日は天気がよかったので、散歩を兼ねて来ていただければと思っておりました。ありがとうございました。

私は座長の三橋でございます。

懇談会設置要綱第6条に基づき、座長を務めさせていただきます。

委員の皆様方の御協力で、当懇談会の議事をスムーズに進めたいと考えております。

八千代こども国際平和文化基金は、子供による国際交流を通じて国際平和及び、国際文化交流に貢献し、並びに本市地域の国際化を促進するために設置されております。

当懇談会はその目的達成のためにかかる事業について調査、検討するために設置されております。

現在は、今、皆様ニュースでお耳にしていると思いますけども、パレスチナガザ地区をめぐる紛争やロシアによるウクライナ侵攻の長期化等々、緊迫する国際情勢の中で、国際交流や、国際平和の重要性が一段と重要になってきているかと思えます。

将来の国際平和担っている子供たちであり、当基金の目的達成は国際平和に貢献するものと考えます。

また、基金の目的達成のために調査検討する当懇談会も、国際平和実現のために、改めて、いろいろな意味でそれを何とか推進していきたいと思えます。

また、皆様、そのためにですね、本日は忌憚のない御意見を頂けたらと思えます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、本題に入っていきたいと思えます。まずは、議題1、令和5年度事業報告について、事務局より、報告をお願いいたします。

<長岡主査補>

はい。議題1に進めさせていただきます。

お手持ちの資料、4ページを御覧ください。

まず、令和5年度事業報告といたしまして、1番、国際平和作文コンクールを行いました。市内の小学校5年生、中学校2年生に800字程度の作文を書いてもらっています。

課題としては、ユニセフと地球の友達のDVDを見て書いてもらっています。

作文数 2989 編，表彰者入選 59 名です。7 月の 12 日に表彰式を開催いたしました。

続きまして，2 番，国際文化交流の推進として，バンコクこども親善大使の受入れを行いました。5 月に 1 週間ほどですね，バンコクからのこども親善大使を受入れていきます。

日程としましては，六，七ページですね資料の 2，記載のとおりです。

内容としては表敬訪問，あと学校交流会，あとホームステイです。

あと，市内，日本の東京とか，見学して勉強して帰られました。

続きまして，派遣事業として，先ほどの国際平和作文コンクールの入賞者から面接を経て，12 名の大使を選びました。

元年度までは，中学 2 年生 12 名を選出していましたが，今年度から小学 5 年生 7 名，中学 2 年生 5 名となっています。

以前，基金懇談会で御意見を頂きましたので，小学生を，また，復活させてまいりました。

その日程としましては 8 ページの資料のとおりとなっています。

1 月に 1 週間ほど，訪問いたしました。

内容としましては，バンコクの都知事と都議会表敬訪問です。

あと，学校交流会，あと，ホームステイに行っていました。

行くための準備として研修の中で，親善大使 OB 会ダイラックアンの協力を得て，一緒に学習していきました。

これは OB 会と仲を深め，また親善大使の中を深め，チームワークをつくる上でもとても有効であったと思います。

報告としましては，以上になります。

<三橋座長>

はい，ありがとうございました。

ただいまの報告について，改めて御意見または御質問ございましたらこの場で，議論していきたいと思っておりますけど，どうでしょうか。

御質問等ありましたら，ぜひお願いいたします。

<寒河江委員>

はい。報告ありがとうございます。

すみません，単純な質問なのですが，平和作文コンクール，作文のこの 2989 編というのは，過去から増えてきているとか減ってきているとか，その辺の状況がもし分かれば，教えていただきたいというのが 1 点と，もう 1 点，今回派遣のほうで小中混在になったということで変更点ところで，結果よかったということで書いてはあるのですけれども，ここは問題になって，何か変化があったか，少し教えていただければ。助かります。

<三橋座長>

はい，ありがとうございました。

それでは，事務局のほうからお願いできますか。

<長岡主査補>

はい。

作文数に関しましては，ほぼ横ばいとなっています。

今まで 3000 編を超えていたので，若干は減ったかなとは思いますがほぼ同じでございます。

あと，小学生を連れて行くということに関して，当初，年齢的な問題で不安は少しあったのですけれども，小学生ならではの活気といいますか，勢いがありまして，逆に中学生も，引張っていくとか全体的に，中学生は小学生の面倒を見るというようなこともありますので，小学生は雰囲気をつくって果敢にチャレンジしていくというような良い点がすごく見られたと思います。

<三橋座長>

はいありがとうございました。
どうでしょう。他の委員から御質問をお願いいたします。

<小杉委員>

はい、小杉と申します。

バンコクの親善大使受入れ時期なのですが、令和5年5月といたしますと、ちょうどコロナが5類に移行していた時期で、前回会議も、その辺で、例えばホームステイとかいろいろ制限が生じるという懸念が示されたと思うのですが、特にその辺について問題はなかったでしょうか。

<長岡主査補>

コロナの問題に関しましては、ほぼ全く問題はありませんでした。

もうバンコクも、解除されている状況でしたので、交流を楽しく過ごせたと思います。

<三橋座長>

はい、分かりました。どうですか。ほかに御意見はございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、皆さんからお聞きしましたことを踏まえ、次の事項に移行して話を進めていきたいと思います。

今後その事業をいろいろな意味で手を加えながら良い形となるよう進めていきたいと思えます。

ほかに御意見等がないようでしたら、報告にある意見を踏まえて、事業の推進を進めていきたいと思えます。

それでは議題の2に移らせていただきます。お願いいたします。

<長岡主査補>

はい。議題の2へ、令和6年度事業計画につきまして、お手持ちの資料9ページを御覧ください。

まず、国際平和への理解としまして、今までは、国際平和作文コンクールと八千代こども親善大使のバンコクと派遣事業は別の事業として行ってきましたが、作文コンクールはバンコク都派遣事業の子供申請に対し、選考一次試験を兼ねており、学校の先生などから話を聞いている子供以外は、子供親善大使の選考の詳細は知らされていませんでした。

バンコク都派遣事業については、子供親善大使になりたいと熱望する声も見られる一方、バンコクに行きたくても、作文コンクールで選ばれなかった、作文コンクールが一次試験であることを知らされていなかったという声や、国際平和作文コンクールは入賞したものの、こども親善大使の選考試験は辞退したいという子もいて、熱意のあるこども親善大使を選ぶための課題となっていました。

また、市内の小学校5年生、中学2年生全員を対象として、作文の提出を依頼してきました。

現場では、平和教育の一環としてカリキュラムに組み込んでいるとの意見もありますが、強制的に作文を書かされることに、つらさを感じる子がいることや、現場の教員の労力を増やしているとの声も聞かれます。

そこで、今までの国際平和作文コンクールを休止し、作文審査を八千代こども親善大使選考一次試験として、希望者のみの申込みに変更していきたいと考えています。

試験内容を明確にし、実施方法を修正することで、熱意のある子供を選考していきたいと考えています。

それで、資料の今までの流れが書いてありますが10ページのところに、改正案が書いてあります。

改正案としましては、今までは、作文コンクールでは、ユニセフのビデオ見て感じたことを書いてもらっていましたが、ビデオの内容は主にアフリカ諸国の貧困の様子を映したものでしたので、バンコクのことや、ほかの国際問題に触れた文書をテーマとして書きづらいものでした。

今後は、より広い視野で自由に国際問題を捉えられる人材を育成したいと考え、課題を自由作文に変更したいと考えています。

また、バンコクに親善大使として行きたいという強い熱意のある人材を選出するために、今までどおり対象年齢者全員ではなく、来年度からですね、希望する生徒のみに申請してもらいたいと考えております。

作文課題はですね、今考えているものになります。

課題として、今世界にはどのような課題があると思いますか。

その解決策、課題をどうやったら解決できると思いますか。

今後、新たにあなたが日常生活の中で実行できることはありますか、この3点を踏まえた、作文を800字程度でまとめたものを提出していただきたいと考えております。

次に、2番、こちらは、親善大使OB会、ダイラックアンの活動の予定です。

令和6年度こども親善大使国際平和展、あと3番の八千代ふるさと親子祭りへの出展等を今、検討しております。

続きまして12ページ、国際文化交流の推進1番、バンコクこども親善大使受入れ、来年度5月に、バンコク都から子供親善大使を1週間ほど受け入れる予定になっております。

予定日程としましては、13ページ、14ページのとおりです。

続きまして2番、八千代こども親善大使のバンコクと派遣、こちらは、来年度の1月を予定しております。

日程としましては、15ページに記載しています。

計画としましては以上です。

<三橋座長>

はい、ありがとうございました。

ただいまの事務局からの報告及び意見等に何か御質問がございましたら、ぜひ、お願いしたいと思います。

はい、どうぞ委員。

<伊藤委員>

委員の伊藤と申します。

平和作文コンクールなのですが、今までユニセフのビデオ見ていたのですが、今度は課題なくしてやるということなのですか。それは全員に書いてもらうということですか。

<長岡主査補>

対象年齢の中の希望者のみになります。

<伊藤委員>

そうすると、今まで3000前後あったのですが、それが、バンコクに作文に参加したいという子供のみの参加という形になりますね。

<長岡主査補>

はい、そのとおりです。

<伊藤委員>

私の認識は平和作文が平和に関する子供たちの思いだと思うので、それが今までは全員3000何人の対象者に書いてきたのですが、今回希望者だけになると、平和事業に対する対象が、何か狭まるような気もするのですが、その点はどうお考えでしょうか。

<増田課長>

そうですね。

そういった御意見もあると思いますが、現状、市の仕事を取り巻く環境というか学校現場も市も、人力的なところもかなり不足しております、事業を今までどおりやっていくというの

も、いろいろと見直しながら進めていかないと、ワークライフバランスの面でも、学校現場も大変ですし、市も今、人がいないというか、なかなか仕事が回らない状況になってきて、事業を見直していく中で、この事業の効果を最大限に発揮していく状況を考え、実施していきたいということでございます。

<三橋座長>

ありがとうございます。

それは決定ですか。

募集案じゃなくても、そういう方針でいくということですか。例えばバンコクに興味を持って、そっち行きたいという子だけを対象にしたということで公表してしまうことか。それとも、そういう方向で考えていくという方針ですか。

<増田課長>

そうですね、決定事項ではないのですが、懇談会の意見も踏まえて決定するという形なのですけれども、ただ、現実問題として、恐らくもう対象者全員に作文をして、それを全部審査して、それから面接に至るという過程をとっていくのがなかなか今、事務的に難しいような状況になってきておりまして、時間外、こっちの話になってしまうのですが、公務員もその時間外勤務の削減ということでかなり法律的に令和元年ぐらいから規制されていまして、それをちょっと超えていくような状況っていうのは今厳しい状況になっているのですね。

その中で持続的にこの事業を続けていくということになりますと、事業的なものを見直していかないとちょっと継続が難しいような状況にはなっております。

<三橋座長>

はい、分かりました。

私は、教育者として伊藤委員の御意見は非常によく理解できるのです。

国際化という意味では、1つのテーマを投げかけて、子供たちに考えてもらうことは非常に面白いものが期待できて楽しい。将来を考えて、よろしいことだと思うのですが、現場としては、手薄な教育環境から先生の思いとして、そこに大きな時間をかけられないというのが現場の苦しい実情だと思うのです。その兼ね合いを、こちらからお願いして、うまく調整していただけたらと思うのですが、そのほかに皆さん御意見は、はい、どうぞ。

<寒河江委員>

今の点に対して、状況として非常に分かるのですが、国際平和作文コンクール自体、非常に考える機会としては重要で、それがなくなってしまうということですね。

本当に一次試験としてだけやるということは、平和、今後これがなくなると、ずっと続けてきた国際について考え、平和について考える子供たちの機会自体がなくなるのは非常に残念だということです。ただ、全員必須っていうのは難しい学校側の都合もあったりするので、その辺はコンクール自体を続けられないのかなと、ちょっと思いました。

ただ、全員必須は難しいでしょうし、切り離さなければいけないところもあると思うのですが、そういう機会がなくなるのは、八千代市としては残念と感じました。以上です。

<三橋座長>

ありがとうございました。

どうですか、ほかに委員の御意見は、はい、どうぞ小杉さん。

<小杉委員>

小杉です。

私も公務員ですので、最近のそういったワークライフバランスの中で非常に理解をしております。

私の職場でも、同じようにこういった作業を続けておりまして、私が思ったのは、3000の作文を全部職員がチェックして選ぶというのは、そういったプロセスはちょっと問題があるとい

うか。おっしゃるとおりで、例えばこの中で書いている気になったのはバンコクに行きたくても作文コンクールで選ばれなかった人がいるという非常に残念なことで、あまりこの作文とリンクさせる必要はなくて、コンクールはやらなくても、こういった作文を書かせること自体は、私は非常に意味があるかなと思っていました。これとは別に考えればよいかと、選ぶという作業の事務負担が大きいかと。

例えば、その作文を見て、選定じゃなくても読んで書かせること自体は続けても、私はよいと思いました。

それから別途、行きたいという希望がある人は、ぜひ行っていただくという体制にすればよいと。

バンコクに行きたくても選ばれなかったということですが、作文出すときに今までは、特にバンクの希望とかは聞いていなかったということでしょうか。

<増田課長>

学校によって、これバンコクに行くための作文だって周知する先生、公然の秘密というか、大っぴらに、これバンコクに行くための作文ですよって周知はしていないのですけれども、毎年そういう選定の仕方をしています。

当然学校側は分かっているはずなので、生徒さんにお伝えしている事例もあるでしょうし、お伝えしないで、国際平和作文だよということを書かせている学校もあったと思いますので、学校によって違ったりしたのかなというところもあるのです。

そういったところも改善して、単純にバンコク行くため、行きたい人を作文で審査して行くとしたほうが目的と手段をすっきりするというか、そういった形になるのではないかなと考えています。

あと、さっきの国際平和作文コンクールですけれども、始めた段階ではSDGSとか総合的な学習とかは学校現場ではなかったと思うのです。指導課というところで、学校に教える部分の先生とお話したところですねSDGSですとか、ユネスコスクールという学校があり、英語の学習も小学生の段階で始めるなど教育を取り巻く環境も変わってきておりまして、あえてここで国際平和作文ということをやらなくても学校現場である程度そういったことを考える事業というのは、やられているという判断もございました。

<三橋座長>

はい、分かりました。

ほかに御意見ございましたら。はい、どうぞ。

<長谷川委員>

すみません長谷川です。

皆さんの御意見等々いろいろ聞いている中で、私も、個人的には3000の作文を、先生方がチェックするというのは相当難儀な話だと思うので、もう現実的な話じゃないと。

行きたい方を中心にといいのは良いのですが、ちょっと気になったのは、この作文の課題のところです。

小学校5年生に、この課題に対する作文ができるのか。ちょっとハードルが少し高い、中学校2年生レベルであればと思ったのですが、小学校5年生で「今、世界のどのような課題があると思いますか」というから、「解決策それに対してあなたの実行」というところはですね、ちょっとハードルが高いと個人的には思いました。

現実的に行きたい方がいらっしゃる。そういった意味では、どのように選考するかということも非常に難しいと思うのですが、恐らく受験の関係もあって中二と小学校5年だと思うのですが、前回その小学校5年生のほうをたくさん入れて元気あるという形であれば、課題については、もう少し緩くというか優しい感じで小学校5年生の子たちができるレベルに下げる必要があると思いました。委員長。

<三橋座長>

はい、ありがとうございました。

私はちょっと勘違いしているかもしれませんが、書くということは、例えば授業の一環、例えばホームルームか何か、また宿題か、自分の時間のある余暇に書いて提出しなさいという形にしているか。どういう形の提出方法で学生に課していることでしょうか。

<増田課長>

基本的には、今は先生がおっしゃったように宿題になると思うのですが、その辺は指導課と教育委員会と調整して、これから進めていく形になると思います。

課題についても今御意見頂きましたので、中学校2年生と小学校5年生ですから、当然年齢も違いますので、教育委員会と協議して、内容については詰めていきたいと考えております。

<三橋座長>

はい、ありがとうございました。

いろいろな御意見、これは重要なことだと思います。いやそれだけ委員も、学生や子供たちに興味を持っているということで、非常に良いことだと思います。また行政のほうも教育委員会の先生方、現場の先生方も、上手くすり合わせをしていただけたらと思います。

そういうことで、ほかに御意見がございませんか。

ないようでしたら、先に進めたいと思います。

それでは議題3のその他に移らせていただきたいと思います。

事務局のほうからお願いいたします。

<長岡主査補>

はい。議題3につきまして、資料12ページの下を御覧ください。

事業費の財源確保について、以前から基金残高の減少は課題となっており、持続的な事業運営のためには、一般財源からの充当について肯定的な御意見を頂いていましたが、来年度からは、ふるさと納税からの充当を予定しております。

基金につきましては、ふるさと納税の制度が変更になったときの備えとしての活用を検討していきたいと思っております。以上です。

<三橋座長>

はい、ありがとうございました。

それではその件に関して御意見、また御質問等がいただけたらと思います。質問、はい、どうぞ。

<寒河江委員>

今のところはですね、基金を使うのではなくて、基本的に言うと、ふるさと納税の分をまずは充てて、もしそれが足りなければ基金から充当するという意味ですか。

<増田課長>

そうですね、基金の残高が今5400万、もともと1億円あったのですが、基金懇談会の中で、どんどん目減りしていくということは、課題に挙げられたということで、いろいろと財源を探しました。一般財源については、なかなか使うのは難しかったのですが、ふるさと納税の制度がございまして、八千代市のおおむね令和4年度でいうと1億5000万ぐらいは、入ってきている状況です。

当然、ふるさと寄附金ですから、使い道を指定して寄附される方もいらっしゃるのですが、使い道を指定しない方もいらっしゃいます。

その予算を大体半額半分ぐらいは用途を指定しないで、寄附されているお金ですので、当面はふるさと納税の寄附金を充てさせていただくということで、一時的な措置といいますか永続的な予定はないのですけれども、当面は基金の目減りを止めさせていただいて、今後、基金に積む方策を考えていきたいと考えております。

<三橋座長>

はい、ありがとうございました。

ほかにご覧いませんか、委員から、ぜひともいろいろな屈託のない、御質問等をお願いしたいと思います。はいどうぞ。

<小杉委員>

今のふるさと納税の1.5億円入ってきているとありますが、逆に、八千代市民がほかの市町村にも、寄附した場合という場合は中央の税収が減ると私は理解しているのですが、そのプラスマイナスで1.5億円のプラスがあるという理解でよろしいのでしょうか。

<増田課長>

プラスマイナスだとマイナスがかなり大きくなりまして、恐らく5億、6億出ています。

これは首都圏の自治体はどこもそうで、八千代市だけの問題じゃないのですが、ただ八千代市は国のほうから交付税等に頂いていますので、75%ぐらいは補填させていただいています。

うちは、ふるさと納税の担当なので、この事業とは関係ないのですが、その差を狭めるような努力をして、いろいろ寄附が増えるようなことはやっているのですが、なかなかその差は埋まらなくて、恐らく今年も、7億円ぐらいは控除で出ていく状況になるかと思います。寄附はやっぱり、こういうところなので、あんまり特産品とかそういうものがございませんので、そこまで大幅に増えることもないでしょう。

この乖離はちょっとどんどん開くような状況ですけど、それとこれとは別で収入を収入として併せさせていただく、支出についてはもう市市民税の控除の話ですので、それは別問題としてとらえて、これは充てさせていただきたいと考えております。

<三橋座長>

はい、ありがとうございました。

国際交流を継続というと、財源というか費用がかかるもので、せっかく今までやってきたものを財源が理由で止めてしまうと、今までの無駄になる。せっかく継続してきたので、是非いろいろな形で、行政で資金の捻出をお願いできたらと思います。

ほかに関心ありますか、また他の件でも結構です。はいどうぞ。

<伊藤委員>

議長、資料を配らせていただいてよろしいですか。

<三橋座長>

そうですか、はい。

<伊藤委員>

三橋座長、今お配りした資料について簡単に説明をします。

八千代バンコク交流の会は、これまで最初からバンコクとの交流に携わった職員、市の職員、学校で随行した職員もいるのですが、そういった職員で構成される会でございます、主に、バンコクのこども親善大使が来たときに、市のシティープロモーション課の支援をさせていただいています。

約60名の会員ですが、会費を集めて交流会を開いたりしておりますので、バンコク親善大使が来たときの学校交流会などを年に1回交流会ニュースを出しております。以上です。

<三橋座長>

はい、ありがとうございます。

非常に僕は面白いことだと思います。例えば、今、いろいろな市町村で、いろいろな国際交流をしていると思いますが、単に羅列を並べて、一応の顔つなぎというのが多いと思うのです。

八千代がバンコクとすごく絆が強い、むしろ政府よりもかと思われる。そういうの子供を中心とした交流が根付くと真の国際交流とつながると考えております。

それと、この間、駒井さん達とお話したのですが、交流したその後はどうなっていますかとお聞きました。子供たちがバンコクの子とお互いに連絡を取り合っているよと、またその友達からネットを広げていると。

僕は、もっとそれをLINEに載せて、誰でも、ほかの子供たちも、もっと入りやすいコミュニケーションラインのシステムをつくって、行った人だけが交流を理解するのではなくて、行った人から聞いたその友達またその友達という場で広げるのも、国際交流の手かなと思うのです。ぜひ、そういうことも考えていただけたらと思うのです。

はい、ほかにございませんか。質問どうぞ。はいどうぞ。

<寒河江委員>

今回の5月の学校交流会に参加させていただいて非常に良いプログラムだと思いましたが、実際にはバンコクから来た方の子供たちの意見として、何が1番よかったか、来た方の感想ってどうだったという事も、わかれば教えていただきたい、お願いします。

<駒井主事>

事務局の駒井です。

来た方は直接タイ語とか英語では話ができないので、コーディネーターの方を通して、子供同士の交流、学校交流会、あとホームステイ、あと先八千代市から派遣した子供たちのOGOB会ダイラックアンがウエルカムパーティーを主催して、そこでも、子供同士が交流していますので、そこでの交流が非常に有意義で楽しかったというようなことを聞いておりますので、バンコク都からもぜひ、この事業は継続したいし、冗談ではあるとは思いますが、期間も延ばしたいなというようなことも言っていただき、非常に好感を持っていただいているなという印象を受けております。

<三橋座長>

はい、ありがとうございます。

始まった時期と今を比べると、この交流国間の経済格差が変わってきたと思うのです。

始まったときは日本もある程度経済状況は良く、経済先進国目線の交流であったかも知れませんが。

しかし、既にタイは首都バンコクを中心にかなり経済的に豊かな人が増えてきているという時代なので次のステップとしては、ただ同じように交流するだけではなく、多種多様な面を持って交流の質を高める方向を進めていったほうが、面白みと継続性があるのではないかと思います。

どうぞほかには。はい、小杉委員お願いします。

<小杉委員>

私は公務員ですが、2014年から18年まで4年間、JICAというところに出向しておりました、JICAを御存じでしょうが、国際支援、ODAをやるところで、日本という国は相当な財政状態が悪くなってきておりました、そういったODAの予算というのは減っていつているわけです。社会保障とか、防衛費は膨らんでいるので、どこかを減らさないといけないのです。

私は実はインドネシアの支援担当で、インドネシアの支援をしていたのですけれど、感じたのは日本の影響力というか、存在感が、年々小さくなっていて、それに乗じて中国が非常に自分の国のパワーを示そうという時代になってきて、その中であって、こういった草の根の事業、交流を続けても非常に大事なことだと。

地方みたいに、ものすごいお金を使って支援するのは、もう日本は、ほぼできない時代になってきていますので、こういった交流ですね、過去に日本から支援を受けた方にとっては日本に感謝するわけですから、そういった方たちと国と国の関係を、今後も続けていくのが、今後日本にとって非常に大事なのではと私は感じました。

特にタイは、結構中国が入ってきている国ではあります。その中で日本も行ってやっていく、このようなプログラムが残っているのはすごい、日本だってよい話かなと思います。

1点疑問を持ったのは、この写真に載っているのは前の豊田市長じゃないかと思いますが、いかがですか、この写真の方って違うのですか。

<増田課長>

そうですね。参議院議員の豊田さんですね。

<小杉委員>

昔の写真だけではないのですね。

<伊藤委員>

議長、はい。

昔の写真ではなくて、これは去年、バンコクの親善大使が来たときに、子供たちはホームステイに行きますので、ホームステイに行っている間に、教職員、我々同行職員で行った懇親会です。

特に豊田市長も、バンコク交流の会に何回か出ていますので、ちょっとお見えになって食事をしたという。

<三橋座長>

ありがとうございます。去年の話ですね。

私も実は、向こうから来た引率者に対して何らかの歓迎の交流機会があるかと思ったら、何もありませんでした。

今お話聞いて、ああやっていたのだと思って、そういう所にお声をかけしていただければ、ほかに参加したいという人もいるかも。次はぜひともまたそのときはよろしく願います。ほかにありませんか。

それでは、いろいろ今までお話ししてきたことを事務局にお願いして、先へ進めさせていただきたいと思います。

それから、ほかに意見等がなければ最後に、事務局より連絡等がございましたらお願いしたいと思います。

<長岡主査補>

はい。

今日頂きました御意見を参考に、また来年度も、事業を進めてまいりたいと考えています。

次回の懇談会につきましては、また終盤の頃に御報告できればと考えております。

連絡事項は以上になります。

<三橋座長>

はい、ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、令和5年度の八千代こども国際平和文化基金事業推進懇談会を閉会させていただきたいと思います。長い間本当にありがとうございました。